

ストリーミングを最大限に活用するための IMPALA の 10 項目の計画

より多くの資金を市場に投入し、収益の希薄化を解消します。

1. ストリーミング収益全体の拡大—サブスクリプションを解除し（インフレに追随する価格設定）、差別化を促進し、収益の希薄化を解消します。
2. ロイヤリティの減額、定額課金制、その他ペイオラと同じ轍を踏むような取り組みは行いません。
3. ストリーミングサービスがユーザーを有料モデルに転換できていない市場に、収益向上の仕組みを適用します。
4. AI を含む高度なツールを使用して、ストリーミング工作、広告ブロック、ストリームリッピング、AI 盗作など、クリエイターから価値を奪う違法行為に対処します。

収益の分配方法を変更します。

5. レーベルは、アーティストに公正で時代に則したデジタルロイヤリティ料を支払います。（注：[こちら](#)に記載のとおり、「公平な報酬」は公平ではないため支持しません。代わりに、フランスのような業界協定を推奨します。）
6. ストリーミング収入の分配を改変します。
 - a) 料金の差別化—ストリーミングサービスは、以下のいずれかまたはすべてについて詳しい検討を希望することが可能です。
 - アクティブ・エンゲージメント・モデル—ファンが積極的に関わるよう働きかけることを、アーティストに対して奨励する手法です。例えば、リスナーがアーティスト名、トラック名、アルバム名で検索または到達したトラックに対して、またはリスナーがアルバムやトラックを保存したり、「いいね」したり、予約注文したりした場合に、プレミアムな価値を付与する方法があります。
 - アーティスト成長モデル—アーティストが収益を持続可能なレベルまで増やすこと、将来有望な才能や成功が見込めるニッチ分野の才能を幅広くサポートすることを、可能にする手法です。最上位層のストリームの収益が少し減り、最下位層のストリームの収益が少し増え、その結果、新進気鋭のアーティストやニッチ分野のアーティストの支援につながります。
 - ファン参加モデル—ストリーミングサービス内で、ファンとの直接的な関わり（例えば追加トラック、より高品質の音声、特別な機能へのアクセスの提供）によって、権利保有者がその分の収益を伸ばせるようにする手法です。
 - 時間比率モデル—長尺の音楽コンテンツの価値の不均衡に対処するための手法です。例えば、曲の最初の 30 秒から 5 分間に対する料金を設定し、その後 5 分間隔でさらに課金されるようにすることができます（他の選択肢も存在します）。
 - b) リスクと投資をカバーするために、レーベルとアーティストの原盤権の割合を上方修正します。
 - c) 収益化の仕組みに達する基準値が、小規模レーベルや小規模市場に損害を与えないようにしなければなりません。

多様性、透明性、気候変動対策の強化

7. レーベル、パフォーマー、プロデューサー、作曲家、ミュージシャン、作品、出版社ごとに検索できるようにします。
8. 地域ごとのレパートリー拡充と言語化を促進します。そのために、プレイリスト作成時のプロファイリングの改善、トラック名の複数言語化、各地域での新規レコーディングへの投資のために安全性の保証を受けた特別な資金調達仕組みを強化します。
9. あらゆる市場の様々なレーベルと協力して（インディペンデント向けの Merlin などを通じて）、編集アルゴリズム開発の透明性を高め、アルゴリズムによって多様性、地域レパートリー、アーティスト発掘の機会に悪影響が及ばないようにします。
10. 業界のデジタル関連パートナーがデジタル音楽の二酸化炭素排出量を評価し、削減できるよう支援します。

インディペンデント音楽のコミュニティは、アーティストの味方であり、クリエイター、消費者、ストリーミングサービス、環境にとってより良いモデルの構築を支援する準備ができています。その目的はストリーミングの可能性を最大限に活用することです。

背景

2021年、IMPALAはストリーミング改革のために画期的な10項目の計画を発表しました。グローバルなインディペンデントのコミュニティは満場一致でこの提案に賛同し、南米とアジア太平洋地域におけるWINのワーキンググループ内では、それが戦略的議論のためのひな型として使用されてきました。世界各国がこの取り組みに触発され続け、アーティストにとって公正な報酬を最優先し、多様性と透明性を維持し、著作権を保護する規制や方針の導入を求める主張を続けています。

2023年には計画発表後の2年間についてレビューを行い、IMPALAは新たな行動を呼びかける声明を発表しました。声明の全文は以下のリンクからご覧ください。[流れに抗う時が来た#2-ストリーミングを最大限に活用する方法の再検討](#)

理由

アーティストの収益を最大化するためのストリーミング改革はIMPALAの最優先事項の1つです。パートナーの立場で音楽サービスを見た上で、IMPALAは、サブスクリプション価格の値上げ、アーティストにとって公正なデジタルロイヤリティ料、収益の配分方法の変更、ファンへの特別サービス、原盤権の持ち分拡大など、市場をより公正で活気あるものにするための提案が必要だと考えています。

IMPALAの新しい提言は、ストリーミングをより公正なものにし、アーティスト、レーベル、ファンのために、活気・説得力・責任のある未来を提示することを目指すものであり、すべて[当初の計画](#)に依拠し、以下の3つの主要テーマに基づいています。

- 音楽市場に資金を流入させ、収益の希薄化を解消する
- 収益の分配方法を変える

- 多様性、透明性、気候変動対策を強化する

今こそ、すべての関係者のために収益を拡大しなければなりません。それを成し遂げるための主な方法は、現行のサブスクリプションモデルによって決定づけられてしまった現状に異議を唱えることです。過去10年間のストリーミングのエコシステムを支配してきたのがサブスクリプションモデルであり、それが現在の状況です。サブスクリプション料金の値上げとファンへの特別サービスの2点は、今回新たに加わった提言です。提言の実現には、慎重な計画立案と業界からのサポートが必要となりますが、必ず成し遂げなければならないとIMPALAは考えています。

市場研究では、近年、レーベルとアーティストの原盤権の持ち分が全体的に減少しており、今回のIMPALAの計画では、その持ち分が低く見積もられているのではないかと疑問を呈しています。過去にリリースされた楽曲が音楽消費全体を支配し続ける中、新たな才能への継続的な投資は一段と重要性が高まっていることから、この疑問への対応は必要不可欠です。

このような理由もあり、IMPALAとグローバルなインディペンデントコミュニティは、いわゆる「公平な報酬」（これに対してパフォーマーは、主に著作権管理団体を通じて、パレルフイーに関して、そして手数料の大幅値下げに関して、ストリーミングサービスと交渉を行うべきです）に反対し続けています。「公平な報酬」により、新人アーティストへの資金投資が減り、結果としてアーティストへの支払いが少なくなる恐れがあります。これは多様性とインクルージョンの問題にもつながっています。具体例については「[デジタルパイの切り分け-公平とは何か](#)」をご覧ください。

IMPALAは引き続き、すべてのアーティストにとって公正で時代に則したデジタル料や、業界全体の協定（[こちら](#)でフランスの事例をご覧ください）とともに、新しい収益分配モデル（IMPALAが提案するアクティブ・エンゲージメント・モデル、アーティスト成長モデル、ファン参加モデル、時間比率モデルなど）が、その答えであると信じます。

プラットフォームもまた業界内の収益希薄化に対抗する役目を担い、ディストリビューターと協力しあって、少なくとも詐欺師に負けない高度な方法でストリーミング工作に対抗しなければなりません。またIMPALAは明確に、プレイヤーへのロイヤリティの引き下げ、アルゴリズムでの特別扱い、その他ペイオラ事件のわいろのような行為に終止符を打つことを求めます。業界が一致団結して、音楽の価値向上に努め、これ以上価値が下がらないようにしなければなりません。

上記主要テーマの3点目は、多様性を高め持続可能性という重大問題に対処することに焦点をあてています。IMPALAはストリーミングサービスによる地域経済の活性化のために数多くの提言を行っており、また、業界全体の現在の二酸化炭素排出量に関する理解を深めています。IMPALAの[二酸化炭素量計算ツール](#)はインディペンデント業界における二酸化炭素排出量に関する主な取り組みの1つであり、すべてのストリーミングサービスに対して、可能な限りの努力と、デジタル音楽の二酸化炭素排出量の取り扱いに関する透明性の高い説明を、要請します。